

4. ESD 活動支援センター運営業務

地域循環共生圏を推進するESDネットワーク

- ・ESDネットワークによる地域循環共生圏担い手育成の促進

●業務目標

SDGs を活用した地域課題の解決に向けての取組の促進、モデル事例の創出

(1) ESD コンシェルジュ活動

近年 EPO 九州及び九州 ESD センターには、自治体主催セミナー、企業内研修、大学や専門学校、高等学校のキャリア教育等、SDGs の理解を深める場づくりについて、九州・沖縄の各主体から相談が寄せられている。

全体の相談案件の傾向として、SDGs の周知とともに すべての市民に SDGs の目標達成に向けて行動できる機会があることを、各主体に適した形で分かりやすく伝える「自分ごと化」への手法が特に求められるようになった。

ア、情報の収集及び発信

●ESD 推進支援と SDGs の担い手育成に繋がる情報提供の成果

九州 ESD センターの Web サイト運営に加え、環境行政分野等 EPO 九州の持つ情報チャンネルを加えた鮮度の高い情報発信を通年行った。SNS 活用として Facebook に加え Instagram を活用し、新たなターゲットへの発信、周知を実践した。

掲載にあたっては、多様な分野（多文化共生、青少年教育、島しょ活動）からの発信を行っており、センターの活動周知や情報の発信を端緒とした相談対応、また具体的な相談者への支援活動にも繋がっている。

Web サイトの運営、SNS、メールマガジンの発行では、九州センター活動情報に加え、地域 ESD 拠点の活動、ESD 教材、助成金制度、セミナー情報等多様な情報を収集、発信することで、幅広いニーズに対応する有効な支援体制の基盤整備を行った。



イ、ESD 活動に関する相談・支援窓口

●業務目標

多様な主体からの ESD 活動に関する相談に対応することにより、ESD の普及啓発や地域ぐるみの ESD を支援する。

教育関係者をはじめ、多様な ESD 実践者からの相談に対応し、必要に応じ企画運営委員や専門家と連携し対応を行った。

教育現場の活動における課題解決に向けたプロセスを具体的に示したほか、相談対応を通して、団体や学校での先進的な ESD 事例について情報を収集した。

また、対話の場、研修運営をとおして多様な学校現場のニーズに応じた企画提案力の向上など、地域ぐるみの ESD 活動を横展開するにあたっての知見が蓄積された。

■ ESD 推進における相談・対話の場

相談者	玖珠町立 八幡小学校
相談内容	<p>大分県玖珠町は、人口の流出を課題として、地域社会の担い手確保を最重要視しており、町として 2020 年 10 月有識者会議が発足した。</p> <p>児童の地域課題への認知が低いことから、教員が彼らの学びに火がつけられるようなカリキュラムづくりを行いたい。</p> <p>次年度教育課程を作成しているところであり、可能であれば今年度中にセンターと情報交換の場を持ちたい。地域資源を ESD に繋げられそうな意欲はあるが、ESD のタネがどのようなところにあるかという示唆をいただきたい。</p> <p>■ 対応</p> <p>3 月 18 日、九州 ESD センターの機能紹介、大牟田市教育委員会の ESD 活動紹介などを校長に実施。今後、教員を対象とした ESD、SDGs についての場作り、また大分県内関係者との接続などを検討。</p> <p>6 月 16 日、玖珠町立八幡小学校を訪問し、校長、教職員 10 名を対象とした研修を実施。ESD や SDGs の実践、また具体的な教材についても提案した。</p>  <p>8 月 10 日、令和 3 年度第一回玖珠町の未来を創る人材育成会議「くすまちの未来の創造プロジェクト 2021 キックオフシンポジウム」に出席した。</p> <p>八幡小学校の取組紹介では九州 ESD センターの活動についても紹介。</p>   <p>令和 4 年 1 月 28 日、大分 ESD フォーラムにて佐藤校長へ教育現場の事例紹介を依頼。登壇が実現した。</p>
アンケート回答より	<p>■ 6 月 16 日 八幡小学校教職員研修より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs について、より身近に考えることができるようになった。 ・ 学校や地域で取り組んでいくことを子供たち自ら考えられるように、これから声をかけていきたい。 ・ 今までしてきた学習内容、指導方法を SDGs も観点に意識づけさせながら、「八幡や玖珠町に住み続けたい」と思う子どもを育てたい。 ・ SDGs のカードゲームを実際にやってみて、日頃なかなか考えないことをグループの人と一緒にアイデアを出し合うことができて良かった。

	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに SDGs を学ばせるための具体的な方法や教材（ゲーム等）を紹介していただき、とても参考になった。 動画なども含め、SDGs がとても身近なものになっていることがわかった。 トレードオフの考え方（新しい発想と考えられる結果と課題に対し、どのような対応策が考えられるか）を子どもたちにたくさん考えられる場面を作りたい。 これから社会に出ていく子どもたちには、大切な学びになると思う。また、地域には、多くの人材がいらっしやるので、その方たちとつながりながら、実践していきたいと思う。
初回相談日	令和3年3月9日（火）

相談者	熊本県立芦北高等学校
相談内容	<p>学校創立100周年に向けた校内SGDs学習推進の研修実施について講師を依頼したい。</p> <p>農業、林業、福祉の各専門科目での学びにおいて地域社会や産業界と協働し、地域課題解決等のための実践力を身に付けることを目的とする。</p> <p>■対応</p> <p>事前の協議、学校を訪問しての打ち合わせを経て、全校生徒238名に対し、10月15日（金）に研修を実施。なお、新型コロナウイルスの感染拡大の影響からオンライン研修として実施した。</p> <p>SDGsの基礎事項のほか、学科の学習、学校の取組との関連について解説を行った。</p>
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> SDGsは、自分ひとりだけではなく、多くの方と協力し解決して行くことが大切であると改めて考えさせられた。 環境問題だけだと思っていたが、社会問題などにも対応していることに興味をもった。 難しい部分もあったが、これからの生活の仕方について考えさせられる研修だった。 農業との関わりがとても深いと思った。 林業とかなり関係しているとは思わなかったのでびっくりした。 日常生活の中にSDGsが密接に関わっていることを知った。 福祉科にも関わりが深いことを知ってSDGsというものを身近に感じるようになるようになった。
初回相談日	令和3年4月2日（金）

相談者	日本環境教育学会
相談内容	<p>一般社団法人日本環境教育学会 第32回年次大会（オンライン）を令和3年は8月20日（金曜日）から22日（日曜日）に北九州市立大学で開催。</p> <p>「新型コロナウイルス対応に関する日本環境教育学会緊急方針」に基づき、第31回年次大会はオンラインで開催する。</p> <p>九州センターとして実行委員会に参加し意見交換に加わっていただきたい。</p> <p>■対応</p> <p>複数開催された実行委員会に出席したほか、広報等について日本環境教育学会よりESDセンター宛に後援申請をいただくなど連携を強めた。</p> <p>8月21日に開催される公開シンポジウムについて、広報周知、チラシ作成、オンライン配信方法等について助言を行った。</p> <p>なお、九州環境地域づくりは、同学会団体会員としても入会している。</p>
初回相談日	令和3年4月12日（月）

相談者	沖縄県教育庁 生涯学習振興課
相談内容	<p>今年度沖縄県教育庁の「SDGs 達成に向けた教育推進事業」の研究指定校について共有したい。</p> <p>また、県内の今後のESD展開に際し、幼稚園、特別支援学校の実践状況について伺いたい。</p> <p>■対応 幼稚園、特別支援学校でのESDの実践について、全国の地方センターから情報を収集し、九州センターの情報と併せて提供を行った。</p>
初回相談日	令和3年4月13日(火)

相談者	屋久島環境財団
相談内容	<p>新年度に伴い、学校側と島内のESD展開について協議を開始している。</p> <p>論点としてカリキュラム構成や全体マネジメントに関する知識が不足していることから、先進的なマネジメント事例を紹介いただきたい。</p> <p>また、島嶼地域ということで、ICTの教育活用についても事例があればいただきたい。</p> <p>■対応 情報収集から、教育委員会や学校現場における事例について複数の事例を提供した。</p>
初回相談日	令和3年4月13日(火)

相談者	沖縄県教育庁 生涯学習振興課
相談内容	<p>教育庁内の検討において、公民館活動のESD展開について議論が行われている。</p> <p>具体的に講師選定を行い研修の場を計画している。</p> <p>講師候補となる団体等を紹介いただきたい。</p> <p>■対応 情報収集から、各地の公民館のESD活動について情報提供を行った。</p> <p>沖縄県内の公民館のESD活動についても情報交換を実施継続する。</p>
初回相談日	令和3年4月19日(月)

相談者	長崎県立五島海陽高等学校
相談内容	<p>ESD、SDGs についての情報提供をいただきたいほか、今年度秋季に島内PTA関係者向けの企画を予定しており、講師候補の選定について協力いただきたい。</p> <p>■対応 ESD関連資料等について学校へ送付。。</p> <p>また、上五島、下五島両地域のPTAを対象としたSDGs研修の講師相談については、福岡教育大学石丸教授をご紹介し、登壇が実現した。</p>
初回相談日	令和3年5月10日(月)

相談者	長崎県立五島海陽高等学校
相談内容	<p>SDGsに関する全校生徒対象の研修を企画しており、九州ESDセンターより講師対応をいただきたい。</p> <p>■対応</p>

	7月9日、オンラインにて全校生徒 208 名を対象に研修対応を実施。SDGs の基礎事項のほか、学科の学習、学校の取組との関連について解説を行った。
アンケート 回答より	<ul style="list-style-type: none"> • 学校で取り組みそうなものもあるので、一人じゃできないことを学校だからこそ協力して教育面のもの等、伸ばしていけるといいなと思った。 • SDGs についてもっとよく考えて自分にできることを探して実行する。 • 高齢化が進む中で高齢者への配慮が必要。 • 個人ではなく、それぞれの人が協力して取り組むことが大切であることが心に残った。自分のもっている力を磨いていきたい。 • 五島の魅力は自然豊かなところなので、普段の生活で海のゴミをひろうなどし、SDGs に取り組めたらいいなと思う。 • もっと調べて、自己探求の授業の課題研究とつなげようと思った。
写真	
初回相談日	令和 3 年 5 月 10 日(月)

相談者	熊本県立第一高等学校 キャリアガイダンス担当
相談内容	<p>校内のキャリアガイダンス講演(50 分間)について、外部講師を招いて定期開催。 7月開催について講師を依頼したい。 SDGs についての概要のほか、講師自身と SDGs のか関わり、職業観を絡めて話題提供をいただきたい。参加者は生徒有志となり、SDGs に関わる仕事選び、キャリアデザインについての内容を希望する。</p> <p>■対応 担当教諭と協議の上、7月16日に学校を訪問し、生徒有志 53 名を対象とした講師対応を行った。 SDGs の基礎事項のほか、仕事観やキャリアデザインとの関わりについての説明を行った。</p>
アンケート 回答より	<ul style="list-style-type: none"> • SDGs は「一つのゴールがそれぞれのゴールとかかわりあう」ということを習ったので、総合的な探求の活動でほかのゴールとどうつなげるかを話し合いたいと思った。 • 普段は学校と結びつきがあまりない分野と連携して SDGs 関連の課題を解決したい。 • 総合探究の時間で SDGs についてのアイデアを自分の持っている課題を改善するために考えたい。 • SDGs について、企業間の関わりや私たちの活動によってできる具体的な影響などを含めた広い視野で討論する。 • 熊本に関連した事項を積極的に取り組みたい。 • 活動の前に自分が興味のある SDGs の分野についてもっと調べてみたいと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな目標を達成するためには、パートナーシップが必要だということから、積極的に周りの人と意見を出し合えるようにしたい。また、自然資源を無駄にしないために必要なことについて話し合いたい。 ・それぞれの課題の共通する原因や対策などを考える。 ・異文化で世界のSDGsの達成状況について調べてみたい
写真	
初回相談日	令和3年5月7日(金)

相談者	熊本県立第一高等学校 コンサルティング担当
相談内容	<p>校内において生徒の構想に対するコンサルティングにおける助言者として参加依頼を行いたい。生徒が①プレゼン資料②名刺③ブースの準備をし「今後、自分たちが取り組もうと思っていること」を外部の方々に向けてプレゼンする機会として設定している。</p> <p>発表に対するアドバイスを名刺交換しながら行い、批判や客観的な意見を募る内容である。JICA九州の他、熊本市国際交流事業団からも助言者が参加。</p> <p>■対応 担当教員と内容について協議の上、7月9日、16日に学校を訪問し、コンサルティングを担当。</p> <p>生徒自身のプロジェクトとして、社会課題等に向けた解決手法の提案を受け、その内容について、意見、改善などを提案した。</p>
初回相談日	令和3年5月14日(金)

相談者	自治体教育部局
相談内容	<p>小学生向けのSDGs教材について紹介をいただきたい。</p> <p>■対応 環境省提供のものなど、数点を事例紹介した。</p>
初回相談日	令和3年5月28日(金)

相談者	福岡県社会教育総合センター
相談内容	<p>地域ESD活動推進拠点の登録数の推移(各年)、そのうち青少年教育施設の登録数の推移についての資料をいただきたい。青少年教育施設の登録も増えているのではないか。</p> <p>■対応 全国センターに照会の上、登録の状況について回答を行った。</p>
初回相談日	令和3年5月28日(金)

相談者	一般社団法人 まほろば自然学校
相談内容	福岡県太宰府地域を拠点に活動している。

	<p>地域 ESD 活動推進拠点の登録に関心があり、制度内容や登録方法について知りたい。</p> <p>■対応 EPO 九州より送付されたニュースレターを見て、拠点登録に関心。拠点登録の現状や、ネットワークの広がりについて解説を行った。また拠点登録手続きの内容について説明し、前向きに登録を検討いただくよう依頼し、今年度の新規拠点登録となった。</p>
初回相談日	令和3年6月5日(土)

相談者	テレビ放送局
相談内容	<p>40 分間の英語のニュース番組を制作しており、文部科学省の新学習指導要領に基づく ESD の現状を取材し特集として放送したい。</p> <p>九州 ESD センターで把握している中学校の ESD 授業や、学校からの問い合わせ、実際にサポートしている内容、先生からの悩みの声などを取材したい。</p> <p>■対応 九州地方環境事務所と協議の上、回答。具体的な取り組みを把握している学校現場の事例を紹介。</p>
初回相談日	令和3年6月15日(火)

相談者	大分県内 高校教員
相談内容	<p>「課題研究」という科目にて、生徒が海洋プラスチック問題についての研究を実施している。課題を深く理解し、内陸部の住民ができること、林業や、農業ができること、木にかかわる職業人・生徒ができること、木を通しての新しい価値観や製品の創造などまでたどり着くことができないか検討中である。</p> <p>学校としての関わりについて意見をいただきたい。</p> <p>■対応 学校現場での活動事例を複数紹介。今後も話題提供、情報交換を継続する。</p>
初回相談日	令和3年6月23日(水)

相談者	熊本県立菊池農業高等学校
相談内容	<p>令和3年度専門高校プロジェクト学習支援事業として、「持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けて」実施計画を推進しており、高校 1 年生向けの SDGs 研修を依頼したい。</p> <p>研修目的として、科目での学びにおいて地域社会や産業界と協働し、地域課題解決等のための実践力を身に付けることと、持続可能な開発目標 (SDGs) について学び、目標の達成に向けて菊池農業高校全体として、また個々の生徒でできる取り組みについて考える機会を設定したい。</p> <p>対象者：農業科 1 年 24 名 日 時：令和3年7月14日(水) 13:30-15:30 場 所：熊本県立菊池農業高校 農場センター会議室</p> <p>■対応 過年度より継続して講師対応を標記高校にて実施中。 上記内容にて、学校を訪問の上講師対応。 1 年生が対象となったことから、SDGs の基礎事項に加え、学校の特色や農業との関わりについても説明を行っている。</p>

アンケート 回答より	<ul style="list-style-type: none"> • SDGs のデザインがだれでもわかりやすいように工夫されているのが印象に残った。 • 知らないことばかりだったので自分のためになった。 • しっかり話を聞いてよかった。SDGs を学べたことで、自分ができることを考えることができた。 • SDGs の考え方が変わる、とても貴重な時間だった。 • SDG16（平和と公正を全ての人に）で戦争がない平和な世界にできるよう頑張ろうと思った。 • きれいな街を作り、地域の人が喜ぶことをしたい • フェアトレードの商品を買ってみようと思った。 • 学校の活動でジェンダーについての講話があったので、私はジェンダー平等についての活動をしていきたい。 • 陸の豊かさや海の豊かさを守ることに挑戦してみたい • 「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」を取り入れたい。
写真	
初回相談日	令和3年7月7日(水)

相談者	熊本県内 大学教員
相談内容	<p>ESD 推進に関する九州 ESD センターと連携について情報交換を行いたい。学部として SDGs、ESD 推進に取り組む方向であり、今後、ネットワークを広げ、熊本県内における教育支援を展開したい。</p> <p>■対応 来所にて情報交換を実施した。地域 ESD 拠点登録制度や、「学びあいプロジェクト」における SDGs カリキュラム研修を紹介した。 今後も情報共有を実施する。 8月5日、有識者と大学を訪問し、ユネスコスクール Univnet 登録に関する情報交換や、地域 ESD 拠点登録について提案及び情報交換を実施した。</p>
初回相談日	令和3年7月14日(水)

相談者	活動団体支援組織
相談内容	<p>支援の対象として、環境保全に関する事例、活動団体を紹介いただきたい。</p> <p>■対応 地域内の情報を集約し報告を行った。</p>
初回相談日	令和3年6月9日(水)

相談者	熊本県内 大学生
相談内容	<p>現在、海洋プラスチックゴミの ESD テキストを作成準備中であり、有明海沿岸での ESD 実践に関する資料や実践についての情報がほしい。</p> <p>■対応</p>

	九州内で海洋教育、有明海地域等について取り組む地域 ESD 拠点の公開教材を紹介。活用の際には、予め団体に連絡をいただくよう依頼した。
初回相談日	令和3年8月23日(月)

相談者	北九州ESD協議会、北九州市環境学習課
相談内容	北九州アワード開催にあたり審査について協力をいただきたい。 書類審査後の案件について委員審査を行い、審査会にて協議し受賞団体を選定する。 ■対応 委員を受任し、審査対応を行うとともに北九州ESD推進に向けた提案等を行った。
初回相談日	令和3年9月8日(水)

相談者	福岡県立社会教育総合センター
相談内容	福岡県立社会教育総合センター主催の令和3年度現代的課題対応研修の実施に伴い、管内のESD関係者への周知を依頼したい。 ■対応 九州ESDセンターのWebサイト、SNS等で発信協力を行った。
初回相談日	令和3年9月21日(火)

相談者	熊本県 消費生活課
相談内容	SDGs 周知についての教材作成を検討している。 各アイコンの意味づけ、考え方について、特に消費生活に関するゴールを中心に詳細を伺いたい。 ■対応 「すばいす」連携から、熊本日日新聞社が九州センターを紹介。ゴールについての解釈、イメージについて紹介を行った。 10月26日熊本県庁を訪問し、担当課を訪問。意見交換を実施した。
初回相談日	令和3年9月28日(火)

相談者	熊本県 消費生活課
相談内容	業務として、ファストファッションを内容に盛り込んだ SDGs 教材の制作を検討している。高校生を主な対象として活用いただくよう検討中である。 海外の事例について二次利用ができる編集素材を探している。 ■対応 環境省によるサステナブルファッション発信サイトや、JICAによる画像利用サービスを紹介した。今後も情報交換を行う。
初回相談日	令和3年10月5日(火)

相談者	熊本県ユニセフ協会
相談内容	ユニセフユース企画について活動助言をいただきたい。 ■対応 先方事務局にてユースチーム(エネルギー問題)と意見交換を行い、取り組みについて情報提供を行った。 また、別相談の熊日特集と連携し紙面登壇を図った。
初回相談日	令和3年10月28日(木)

相談者	熊本県内 市民
相談内容	小学生を対象とした SDGs 資料をいただきたい。 その他学習用途で利用できるものを紹介いただきたい。 ■対応 環境省制作資料、企業による啓発資料などを提供した。
初回相談日	令和3年10月29日(金)
相談者	熊本県立菊池農業高等学校
相談内容	学校として、竹林後輩などの地域課題解決に取り組んでいる。竹林の資源活用のひとつとして、竹の葉を利用した草木染体験を検討している。 草木染を行っている教育施設などを紹介いただきたい。 ■対応 クラフト体験等を提供しているビジターセンターの担当者を紹介。作業の手順等について情報交換に対応いただくよう依頼した。 今後も活動状況について情報交換を行う。
初回相談日	令和3年10月31日(日)
相談者	独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
相談内容	九州地区青少年教育施設協議会の研修会を実施する。協議会加盟施設職員、並びに ESD 団体が対象となる。 九州 ESD センターのネットワークにて、九州、沖縄地域の ESD 関係者にも周知をいただきたい。 ■対応 九州 ESD センターの Web サイト、SNS 等で発信を行ったほか、地域 ESD 活動推進拠点にも個別に案内を実施した。
初回相談日	令和3年10月31日(日)
相談者	公益財団法人九電みらい財団 事務局
相談内容	財団が実施する次世代育成支援の助成事業について、情報発信先を探している。九州地域において、発信協力を得られる団体等を紹介いただきたい。 また EPO 九州に対しても情報発信、資料の配架を依頼したい。 ■対応 九州沖縄各地域に情報提供を行う団体、Web サイト等を一例として紹介した。また EPO 九州としても、情報発信を行い、Web サイト、メールマガジン、SNS 等で助成制度の周知を実施した。
初回相談日	令和3年11月2日(火)
相談者	福岡県内 NPO 法人
相談内容	生物多様性の保全に関する検討において、推進の指標として地域 ESD 活動推進拠点の登録件数を参考とすることは可能か。 ■対応 地域拠点の登録動向について説明を行った。 今後も情報交換を実施する。
初回相談日	令和3年11月5日(金)

相談者	SDGs 推進企業
相談内容	<p>新型コロナウイルスの感染拡大により、自治体との情報交換が停滞し、地方創生業務にも多様な影響が発生している。</p> <p>教育行政、環境行政等について情報交換を依頼したい。</p> <p>特に福岡県の ESD、環境教育等に関する状況を中心に伺いたい。</p> <p>■対応</p> <p>地域 ESD 拠点登録制度において、福岡県内で先行して登録が行われてきた背景を説明。大牟田市教育委員会のユネスコスクール展開や、福岡教育大学の ESD 拠点としての役割について紹介を行った。</p>
初回相談日	令和 3 年 11 月 5 日(金)

相談者	独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
相談内容	<p>夜須高原青少年自然の家では、「コラム 体験の風をおこそう」として、ESD や SDGs の学び推進に関するコラムの掲載を継続的に行っている。</p> <p>この度 10 月に現地を会場に実施された「地域 ESD 拠点・自然体験施設意見交換会」について、主催者として九州 ESD センターより、意見交換の内容をコラムとして寄稿いただき、外部連携やネットワーキングの事例として紹介を行いたい。</p> <p>■対応</p> <p>九州 ESD センターに掲載中の開催レポートを基に、コラムとして原稿を提出し掲載を依頼した。センターの設立目的や活動、Web サイト等の周知を合わせて行っている。</p>
初回相談日	令和 3 年 12 月 2 日(木)

相談者	独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
相談内容	<p>夜須高原青少年自然の家では、今後 SDGs の普及啓発の一環として、国際交流に関する事業を検討している。そこで、外部組織として地域 ESD 拠点に登録されている、NGO 福岡ネットワークへの協力依頼を予定しており、九州 ESD センターに紹介を依頼したい。</p> <p>10 月の自然系拠点意見交換会にも参加されており、活動情報を拝聴した。</p> <p>■対応</p> <p>NGO 福岡ネットワーク加藤氏に連絡を行い、了承の上ご連絡先の共有を行った。</p> <p>今後の具体的な連携などについては、協働の事例として共有いただくよう依頼している。</p>
初回相談日	令和 3 年 12 月 7 日(火)

相談者	熊本県内 県立高校
相談内容	<p>校外授業で SDGs 目標達成に向けた取り組みをしている企業を訪問する企画を検討しており、企業の選定を相談したい。</p> <p>■対応</p> <p>候補を提案の上、具体的な連携を行っている企業を担当教員に提案した。</p> <p>担当社員の紹介を行ったところ、新型コロナウイルス感染拡大から、視察中止となった。今後も学校との連携を継続する。</p>
初回相談日	令和 3 年 12 月 22 日

相談者	熊本県立大学 国際教育交流センター
相談内容	<p>交流センターヘクラーク記念国際高校熊本キャンパス長、山崎氏より校内プレゼンテーション発表会の審査委員紹介依頼があり、EPO九州/九州ESDセンターを紹介したい。</p> <p>学校では「WonderfulChallenge2021」として、大和ハウスやパナソニック等5社の企業ミッションに対応したアイデアを審査講評するイベントを実施している。</p> <p>■対応 12月22日開催の標記イベントについて、審査委員として参加対応。</p>
初回相談日	令和3年12月15日(水)

相談者	熊本県内 一般社団法人
相談内容	<p>地域をテーマとした高校生対象の教育旅行に関するプランニングを行っており、持続可能性や生態系保全の観点から、EPO九州/九州ESDセンターから意見をいただきたい。</p> <p>■対応 内容について聞き取りを行い、事前学習、事後学習やテーマ設定について所感を取りまとめ報告を行った。</p>
初回相談日	令和4年3月16日(水)

相談者	自治体 環境部局
相談内容	<p>環境活動、ESD活動団体等で拠点登録を行いたい。</p> <p>また、登録の手続きの詳細について伺い、登録に関するメリットの設定や、ネットワークの状況について知りたい。</p> <p>そして行政の関わる拠点登録の事例があれば伺いたい。</p> <p>■対応 行政の関わる拠点登録について、宮崎県環境情報センター、大牟田市教育委員会、鹿島市ラムサール条約推進室の事例について紹介。</p> <p>また拠点登録方法の詳細について案内したほか、全国フォーラムの開催や、ネットワーキング、情報の共有について登録の利点を補足している。</p> <p>今後もESD推進について情報交換を行う。</p>
初回相談日	令和4年3月15日(火)

相談者	自治体 教育部局
相談内容	<p>次年度事業における新規セミナーにて、社会教育や地域づくりに関する講師の選定に協力いただきたい。</p> <p>■対応 九州センターにて対応することで提案を行っている。</p>
初回相談日	令和4年3月18日(金)

相談者	自治体 環境部局
相談内容	<p>グリーン社会の推進活動の中でユースの関わりを高めたい。</p> <p>EPO九州、九州ESDセンターではこれまでどのような支援を行ってきたのか。</p>

	<p>ユース環境活動発表との連携を探りつつ、九州 ESD センターの協力をいただき、各県のユースの環境活動活性化を図りたい。</p> <p>■対応 活動方針や内容について情報交換を実施予定。 ESD の推進において協働の可能性を探る。</p>
初回相談日	令和 4 年 3 月 23 日(水)

オ、九州地方 ESD 活動支援センターの後援・共催行事

①後援

開催日	行事名	都道府県	会場	主催
5月23日 -8月1日	日本版機構若者会議	東京都	オンライン 対面	日本若者協議会
令和3年 3月1日 -令和4年 2月28日	三菱アジア子ども絵日記フェスタ 2021-2022	東京都	オンライン 対面	三菱アジア子ども絵日記フェスタ 実行委員会
8月20日 -8月22日	日本環境教育学会第32回年次大会 (北九州)	東京都	オンライン 対面	一般社団法人 日本環境教育学会
10月16日	SDGs Design International Awards 2021	福岡県	オンライン	九州大学大学院 芸術工学研究院
10月17日	東北 ESD/SDGs フォーラム 2021 みちのく SDGs in あおもり	宮城県	オンライン 対面	東北地方 ESD 活動支援センター
12月11日 12月12日	第8回公害資料館連携フォーラム in 長崎	岡山県	オンライン	第8回公害資料館 連携フォーラム in 長崎実行委員会
2月10日 -2月12日	世界遺産学習サミット in 屋久島	鹿児島県	オンライン 対面	屋久島町教育委員会
3月19日	沖縄県 SDGs 教育連携ネットワークシンポジウム	沖縄県	オンライン 対面	国立大学法人 琉球大学

②共催

開催日	行事名	県	会場	主催
11月20日	ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会	福岡県	ホテル ニューガイア オームタ ガーデン	大牟田市教育委員会

(2) 九州沖縄地域 ESD 推進ビジョンの策定

●業務目標

九州・沖縄地域の ESD 実践者等からなる ESD 地域ネットワーク全体としての具体的な目標を設定し、それに向けてそれぞれの ESD 実践者等がどのような役割を担い、どのような ESD 活動を実践していくのかを整理・明文化する。もって、九州・沖縄地域の ESD 実践者等の地域ぐるみの ESD 推進に向けた自主的な取組を促す。

■背景

持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）から ESDfor2030 へ国際的な動向が展開され、あわせて第2期 ESD 国内実施計画が策定されるなど、国内外の動きが活発化する一方で、地方での ESD 推進に向けた指針や方向性についての議論が不足している。

また、ローカル SDGs（地域循環共生圏の実現）や脱炭素社会づくりに向けた関係主体のネットワーク化、多様な人材育成のニーズも高まっており、子ども・ユース層に加え、企業、行政等の関係者が持続可能性について考え、「自分ごと」として捉えた学びのプロセスや支援枠組みの必要性が高まった。そのため、九州 ESD センターが推進する ESD ネットワーク構築の新フェーズとして多様な分野との関係構築、強化の指針となるビジョン策定を行うこととした。

昨年度、九州、沖縄全県からの地域 ESD 活動推進拠点登録を受け、拠点ネットワーク拡充の方向性についても、量的な拡大から、質的・分野網羅的な側面で各拠点との取り組みを行う段階へ移行していることから、関係者の拡大やネットワークハブとしての機能拡充の活動としても、多様な実践者からの声を反映する実践を行った。

- ・令和3年8月開催
- ・委員に対し、推進ビジョンの概要説明
- ・策定プロセスに関する合意、助言

ビジョン策定にかかる企画運営委員会

- ・令和3年10月開催
- ・地域ESD拠点、活動施設の実践共有
- ・団体に求められる役割の整理
- ・パートナーニーズ

地域ESD・自然体験施設意見交換

- ・令和4年3月開催
- ・九州沖縄地域の特性として整理
- ・活動リソースの島内循環や、地域観交流のニーズ

島しょ地域ESD関係者意見交換

プロセスによって獲得された知見

- 地域の現状と課題の把握
- 支援やパートナーシップへのニーズ掘り起こし
- 育成すべき人材像の共有
- 複数の場を通して得られた知見の反映

■成果

第一のプロセスである企画運営委員会では、推進ビジョンの策定にあたって、九州・沖縄地域の ESD 推進の現在地を明確化すべきではという提案がなされた。この提案に対し、地域 ESD 拠点や自然体験施設による意見交換会、九州・沖縄地域の特色である島しょ地域の ESD 関係者による意見交換会、また大分 ESD フォーラムに関する複数の対話の場を通して、情報収集と整理を継続した。

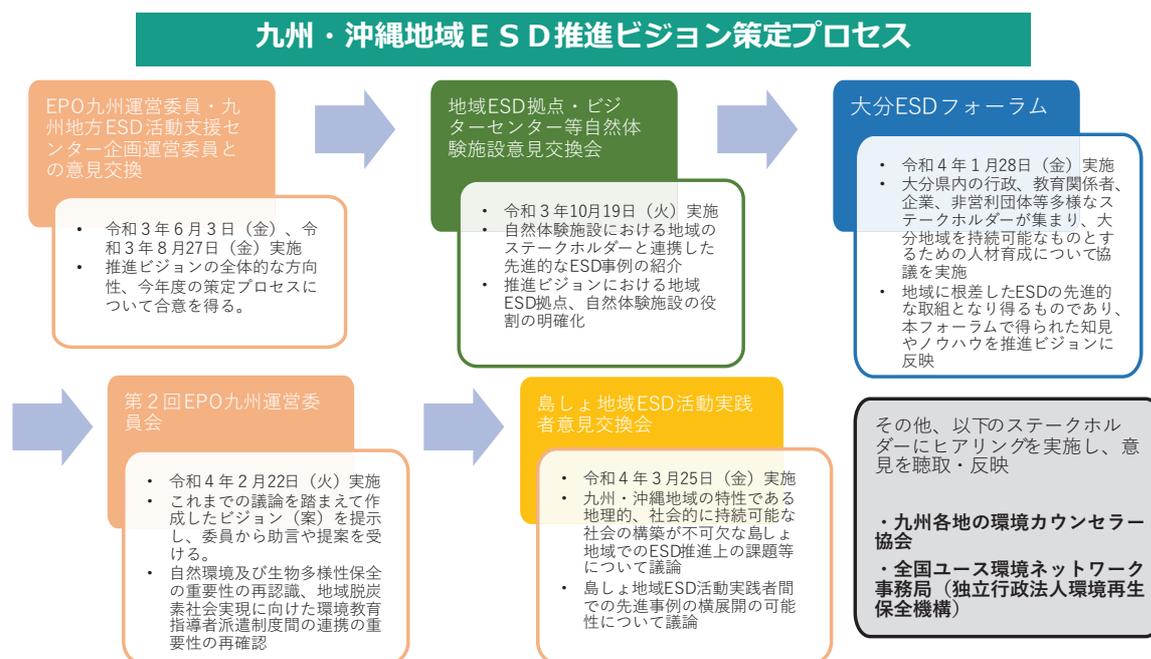
一連のプロセスを通して、地域の現状と課題が把握され、推進ビジョンの実効性を向上させたと

ともに、九州センターによる「地域ぐるみのESD」の推進に向けた中期的な視点を獲得した。

このような策定に向けた活動により、九州・沖縄地域のESD推進ネットワークが、中期的・具体的に目指す方向性について、実効性のある形で整理、明示された。

ア、策定に向けたプロセス

下記のプロセスを通して、「九州・沖縄地域 ESD 推進ビジョン」の策定を行った。



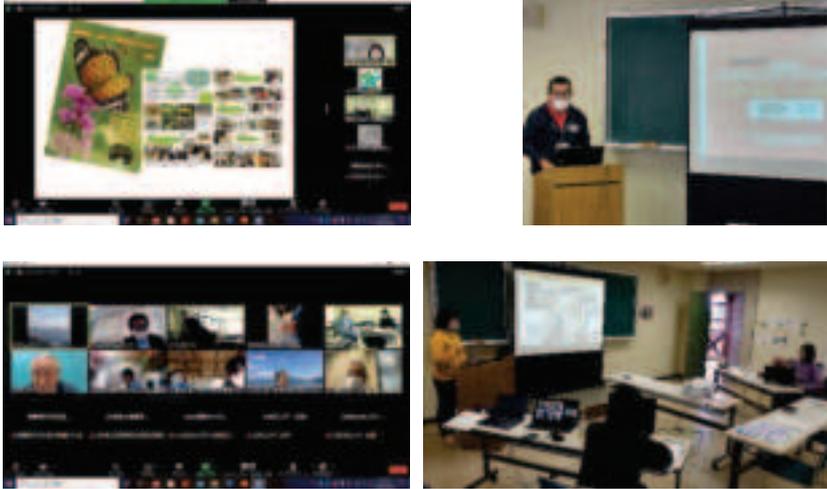
①企画運営委員との策定検討会議

催事名	令和3年度 「九州・沖縄地域 ESD 推進計画（仮称）」 策定検討会議
目的	第一回企画運営委員会にて提案を行った、九州センターによる標記推進計画の策定に向け、各委員より知見を提供いただき、策定プロセスに反映する。
開催日時等	日時：令和3年8月27日（金） 13:30-15:30 会場：オンライン 開催形態：オンライン 主催：九州地方 ESD 活動支援センター
概要	参加人数：17名（ESDセンター企画運営委員及びEPO運営委員、事務局） <次第> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 本日の検討会議の位置づけの説明 4. 計画内容に関する説明 及び意見交換 5. 閉会
議事・提案事項	各委員からは、ESD 推進の現在の事例を提示、対象や担い手の整理に着手すべきであるという指摘があった。 地域 ESD ネットワーク構築の支援をセンターが担うという仮説に基づき、地域ごとの推進のあり方を明確にする方向性が示された。

	<p>組織経営を行いうるマネジメント力不足など、仮説や課題をクリアにし、地域でどのような人材が現在不足しているのかを捉える必要性について論じられた。</p> <p>また、NPO 人材だけではなく、企業の育成に取り組みなくては市民活動推進の限界があることから、企業人材の掘り起こし、ネットワーキングが必要であるという提案があった。</p> <p>また「計画」として ESD について具体的な目標を設定して推進、共有することへの違和感についても指定が行われた。</p> <p>そして、脱炭素と ESD の関連では、生活のあり方変容という点で ESD に繋がることから、着手の必要性があるという意見があった。</p> <p>一方、カーボンニュートラルは地域レベルでは捉えるのが難しく、ESD に係る活動がグローバルな課題に反映されている実感を得られるかが課題であるという指摘があった。</p>
--	---

②地域 ESD 活動推進拠点、自然体験施設との意見交換

催事名	令和3年度 九州・沖縄地域 ESD 推進計画 地域 ESD・自然体験拠点等意見交換会
目的	<p>九州地域の ESD ネットワーク推進に向けた課題は何か、またそのために各施設、職員が地域でどのような役割を担っていくのかを議論する、意見交換会として開催。地域での SDGs の担い手育成の事例を共有、日頃のご活動にあたっての課題の抽出を行いながら、地域での ESD の現在地を探り、推進の壁となっているものを整理する。</p> <p>意見交換を通して得られた成果を、今年度策定する「九州・沖縄地域 ESD 推進計画」の構成要素や、設定すべき達成目標等として導入する。</p>
開催日時等	<p>日時：令和3年10月19日（火） 13:15-17:00</p> <p>会場：国立夜須高原青少年自然の家</p> <p>開催形態：対面とオンラインの併用</p> <p>主催：九州地方 ESD 活動支援センター</p> <p>協力：国立夜須高原青少年自然の家</p>
概要	<p>出席者人数：18名（管内ビジターセンター、地域 ESD 拠点等）</p> <p>自然体験施設等による ESD 推進に関する事前アンケートを経て開催。</p> <p>地域 ESD 拠点 2 団体と、外部連携事例の紹介を実施し、ESD 推進の課題整理、ニーズを把握する意見交換を実施した。</p> <p>プログラムを通して、各団体が共通して持つ課題や、支援ニーズが明確となり、持続的に自然体験を地域で提供していくための方向性が共有された。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開催挨拶 2. 九州 ESD センターによる趣旨説明 3. 参加者自己紹介 4. 活動紹介 <p>『小学校における生物多様性の保全に関する環境教育事業』 一般社団法人まほろば自然学校 代表理事 岩熊 志保氏</p> <p>『夜須高原における ESD・SDGs の取組について』 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家 所長 井上 智朗氏</p> <p>・質疑応答とブレイクアウトルーム 【テーマ】地域における ESD の現在地を探る</p>

	<p>5. 九州・沖縄地域 ESD 推進計画の説明</p> <p>6. 意見交換（全体をとおして）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブレイクアウトルーム 【テーマ】ESD 実践者の役割と地域課題解決について <p>7. 閉会挨拶</p>
意見交換 より	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の2事例については多くの場所で横展開できる可能性を感じた。 ・拠点間の協働について具体的なアイデアが生まれた。 ・団体にとって内部教育や研修機会の必要性がある。 ・長期間勤務に依る資質向上が図れない勤務形態であることから、本質を捉えた施設運営が必要となる。 ・地域人材の活用や、団体相互連携により活動に幅が生まれるのではないか。 ・生物などにおける、地域を超えた専門家連携に可能性がある。 ・SDGs や ESD に関する表面上の活動が氾濫することを危惧している。 ・行政の異動に耐え、活動が維持できる仕組みづくりが最重要課題である。 ・足りないリソースを明確化して協働志向をいかに共有できるか。 ・自然体験施設間よりも企業、異分野との連携を不得手としている。 ・新型コロナウイルスの感染拡大により、従来の3密をいかに創るかという青少年施設の運営に転換が求められた。 ・集団学習とSDGsのゴールをどのように接続するか。 ・ゼロ・カーボンシティの表明などで行政と協働した、教育側面での成果が求められている。 ・団体の持続可能性のため、経済的な側面支援が必要である。 ・活動団体の高齢化や支援ニーズへの対話の機会不足が深刻化している。 ・ESD 推進主体としてビジターセンターの位置付をもっと高めて行く必要がある。
写真等	

③島しょ地域のESD実践者との意見交換

<p>催事名</p>	<p>島しょ ESD 交流会 ～島しょ地域実践者による地域ぐるみのESD 推進～</p>
<p>目的</p>	<p>SDGs を活用した地域課題の解決に資する人材育成が求められている中、九州・沖縄の特色である島しょ地域の持続性、担い手育成自体が重要な地域課題である。</p> <p>県域を超えた島しょ地域での ESD 実践者間の意見交換を実施し、持続可能な地域づくりに寄与する人材を育成する「地域ぐるみの ESD 活動」の実践に際し、活動の現状を把握し、課題を明らかにする。</p> <p>また「九州・沖縄地域 ESD 推進ビジョン」についても周知し、島しょ地域での実践に繋げ、地方センターを含めた ESD 推進ネットワークのあり方を検討する。</p>
<p>開催日時等</p>	<p>日時：令和 4 年 3 月 25 日（金） 13:30-15:30 会場：那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha 研修室 2 開催形態：オンライン 主催：九州地方 ESD 活動支援センター 協力：MIRAIME Lab（ミライメ・ラボ）</p>
<p>概要</p>	<p>参加人数：32 人</p> <p>九州・沖縄地域 ESD 推進ビジョン策定のプロセスとして、島しょ地域で ESD に取り組む団体、九州・沖縄の地域 ESD 拠点を対象とした情報交換会を開催した。</p> <p>情報交換会では、海底火山から噴出、琉球諸島に漂着した軽石について地球科学・岩石学の専門家である加藤先生（琉球大学名誉教授）より話題提供を行った。</p> <p>開催にあたり、各島しょ地域の ESD 実践者から、日常の活動や課題認識についてうかがうアンケートを実施している。回答の結果は、今後の ESD ネットワークづくりの参考として活用する。</p> <p>今回の開催をきっかけとして、新たに関係を構築した島しょ地域 ESD 関係者とネットワークを継続する。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 九州地方 ESD 活動支援センター 2. 【話題提供】 「軽石は海底火山からのメッセージ 地球科学で考える軽石漂着」 琉球大学名誉教授 加藤 祐三 氏 3. 【情報共有】地域 ESD 推進ビジョン（仮称）について 4. 【意見交換】島しょ地域での ESD・人材育成について
<p>アンケート回答より</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者とは普段会う機会がないが、その専門的な研究の成果や話題の提供があることは貴重だと感じた。 ・過去の軽石分布の一部を知ることができてよかった。教育活動における軽石の具体的な扱い方、面白さを伝えることが今後の課題と思える。 ・九州、沖縄の島しょに同じように取り組む団体やグループを知ることができた。今後、つながりを持ち、協力や情報共有できたらと思った。
<p>写真等</p>	

イ、大分 ESD フォーラムの開催

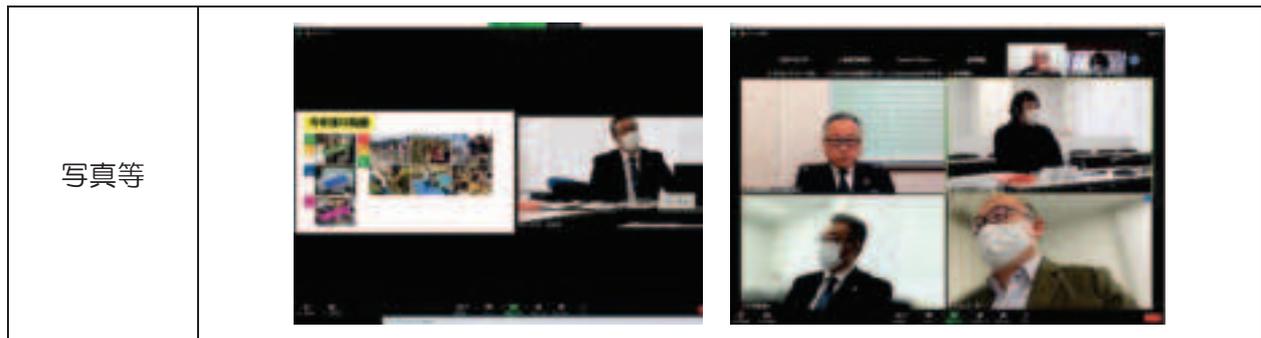
上記のプロセスを通して得られた知見、地域課題、支援ニーズを基盤とした「九州・沖縄地域 ESD 推進ビジョン」について、幅広い参加者への共有の場として地域フォーラムを開催した。

フォーラムの企画運営にあたっては、開催地域である大分県の ESD 実践者の 2 回に渡る準備ミーティングを開催し、地域課題や支援ニーズについて議論を行った。

「地域ぐるみの ESD 推進」を描く上で、地域ネットワークの基礎が築かれたとともに、多様な実践者に対して自らの活動と ESD の接点について具体的な視座を提供した。

催事名	大分 ESD フォーラム
目的	九州・沖縄地域において、持続可能な開発のための教育（ESD）を実践者の連携促進、ネットワーク形成を目指し、持続可能な社会づくりと、その担い手育成に取り組み始める主体を対象としたフォーラムを開催する。
開催日時等	日時：令和 4 年 1 月 28 日（金） 13:30-15:15 会場：JCOM ホルトホール大分 201 会議室 開催形態：対面・オンライン併用 主催：九州地方 ESD 活動支援センター 協力：認定 NPO 法人地域環境ネットワーク
概要	<p>参加人数：67 名 ※詳細は別記 （九州沖縄地域の ESD 活動団体、企業、行政等。及び事務局）</p> <p>「地域ぐるみの ESD」推進にあたり、基盤となる SDGs や持続可能性についての概念を掘り下げる基調講演と、地域の実践事例を提供するとともに、九州沖縄各県の ESD 実践者に依る意見交換の場を設けた。</p> <p>意見交換ではソーシャルビジネスに取り組むユースからの質疑や、教育行政担当者からの ESD 推進に関する問題提起など、重層的な内容で地域の担い手育成に関する議論が行われた。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 開会挨拶と趣旨説明 環境教育、ESD 実践に関する基調講演（オンライン登壇） 「持続可能性と人づくり・ESD の基礎」 講師：福岡教育大学 社会科教育ユニット 教授 石丸 哲史様 大分県内の地域 ESD 実践に関する事例紹介 「八幡小学校の ESD の取り組み」 紹介：大分県 玖珠町立八幡小学校 校長 佐藤 慎治様 関係者による意見交換 参加：別府溝辺学園短期大学 非常勤講師 / 社会福祉法人萌葱の郷 アートアドバイザー 木村 秀和様

<p>参加詳細</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>都道府県別</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>福岡県</td><td>12</td></tr> <tr><td>佐賀県</td><td>0</td></tr> <tr><td>長崎県</td><td>2</td></tr> <tr><td>熊本県</td><td>4</td></tr> <tr><td>大分県</td><td>35</td></tr> <tr><td>宮崎県</td><td>2</td></tr> <tr><td>鹿児島県</td><td>1</td></tr> <tr><td>沖縄県</td><td>5</td></tr> <tr><td>その他</td><td>1</td></tr> <tr><td>合計</td><td>62</td></tr> </tbody> </table>	都道府県別		福岡県	12	佐賀県	0	長崎県	2	熊本県	4	大分県	35	宮崎県	2	鹿児島県	1	沖縄県	5	その他	1	合計	62	<table border="1"> <thead> <tr> <th>領域別</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>NPO・法人等</td><td>27</td></tr> <tr><td>企業・団体</td><td>4</td></tr> <tr><td>教育施設・機関</td><td>18</td></tr> <tr><td>行政機関</td><td>13</td></tr> <tr><td>合計</td><td>62</td></tr> </tbody> </table> <p>参加行政機関(順不同) 佐伯市役所 環境対策課 / 大分県教育庁義務教育課 竹田市教育委員会 / 大分県うつくし作戦推進課 日田市 環境課 / 杵築市</p> <p>環境保全・エネルギー対策係 大分市環境対策課 / 沖縄県教育庁生涯学習振興課 宮古島市企画政策部エコアイランド推進課 大牟田市教育委員会 / 宮崎県環境森林部環境森林課 北九州市 環境学習課 ESD 推進係/玖珠町</p>	領域別		NPO・法人等	27	企業・団体	4	教育施設・機関	18	行政機関	13	合計	62
都道府県別																																				
福岡県	12																																			
佐賀県	0																																			
長崎県	2																																			
熊本県	4																																			
大分県	35																																			
宮崎県	2																																			
鹿児島県	1																																			
沖縄県	5																																			
その他	1																																			
合計	62																																			
領域別																																				
NPO・法人等	27																																			
企業・団体	4																																			
教育施設・機関	18																																			
行政機関	13																																			
合計	62																																			
<p>アンケート 回答より</p>	<p>●推進ビジョンに関する感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ESD に関する取組の概要がよくわかる内容だった。 取り組みに期待が高まった。 地域協働での ESD 推進や、地域づくりのための ESD という流れは行政や地域主体、学校にとって理解しやすく、まとまりやすいと感じる。一方、脱炭素については具体性について分かりにくく、地域エネルギーなどは電力会社な大きな課題で関われない物と感じる。地方行政も地域住民も学校等も取り組みやすい具体例にも言及すると大きな流れに繋がっていくのではと考える。 多様なステークホルダーが関わっていくことが重要だと思う。このような構想をしていただけること、大変ありがたく拝聴した。 <p>●講演、事例提供について</p> <ul style="list-style-type: none"> 初歩的な内容ということでしたが、自分の知識が整理され、大変勉強になった。 講演自体は基本的な内容であったが、自分自身が抱えている問題点について整理できた。 予測不可能な未来に向けて取り組みを行う上で協働する方々と想いを共有するのに適切なキーワードを頂けた。 端的に分かりやすく、SDGs や ESD についての概要と要点が伝わってきた。また聞くもの、現場にも意識をした表現や課題提起をされていたので主体的に考えることも促された講演だった。 活動事例があったことで、ご講演等と具体がつながり、大変有意義な会になったと思う。 地域は学校とどうつながればよいのか悩んでおり、地域コーディネートの重要性をますます感じた。 子どもたちが生き生きと取り組んでいる様子が伝わった。 <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ESD 教育のことだけでなく、企業の ESD への取組、社会全体の取組について考えることができ、視野が広がった。 地域が変われば、取り組み方や研究の進め方も変わってくるが、今後の活動や考え方のヒントとなる発表や意見があり、大変参考になった。 学校教育における ESD の推進と同時に社会教育・社会人の教育における ESD の推進が重要と考える。 																																			



■大分 ESD ミーティングの実施

上記フォーラムの開催準備として、大分県内の ESD 実践者、企業、行政、活動団体等を含んだ多様なメンバーに依るミーティング企画を実施。

フォーラム開催内容への反映・改善や、参加者、関係者の拡大が得られた。

地域に特化した課題の深掘りや、支援ニーズの明確化を行うことで、他地域でも展開できる活動モデルのトライアルを行った。

催事名	第1回大分 ESD ミーティング
目的	<p>地域の環境教育、ESD を推進するネットワーク形成に向けた課題、またそのために各関係者が地域でどのような役割を担っていくのかについて意見交換を行う場として開催。地域での活動事例を共有するとともに、課題抽出等をとおして ESD の地域での方向性やあり方を探る構成とする。</p> <p>意見交換を通して得られた成果は、下記の「九州・沖縄地域 ESD 推進計画」（仮称）にて活用する。</p>
開催日時等	<p>日時：令和3年11月26日（金） 14:00-16:00 会場：JCOM ホルトホール大分 201 会議室 開催形態：対面・オンライン併用 主催：九州地方 ESD 活動支援センター 協力：認定 NPO 法人地域環境ネットワーク</p>
概要	<p>参加人数：23名（企業、行政等大分県内の ESD 関係者）</p> <p>標記目的のもと、大分県内の企業、行政、NPO 法人等多様な分野の参加の元ミーティングを開催した。</p> <p>参加者の活動に関する紹介を設けネットワーキングを促進したほか、九州 ESD センターから大分県内の ESD センターから事例や、センター独自の施策について情報提供を行った。</p> <p>また策定を進める推進計画について、フォーラムの開催や実施したプロセスの紹介を行い、今後のネットワーキングの展開について説明を行った。</p> <p>意見交換では ESD 推進の課題に焦点を絞り、多様な視点から議論を行った。</p> <p><次第> 1. 開催挨拶 2. 九州 ESD センターによる趣旨説明 3. 参加者による自己紹介 4. 九州 ESD センターからの情報提供 5. 九州 ESD センターによる 地域 ESD 推進ビジョン（仮称） について 6. 参加者意見交換</p>

意見交換 より	<p>■参加者からのトピックと問題提起</p> <ul style="list-style-type: none"> • 根本的な問いと課題設定 ESD によって育成する人材のイメージ形成が必要である。 環境問題と最低限の生活をどう両立するのか。 • ESD 推進の障壁 学校現場の限界と人材の不足が課題となっている。 教員の ESD への関心不足の状況がある。 持続的に ESD を提供する仕組みが欠けている。 • 環境教育の機会創出 仮説 1 : ESD の供給者と需要者のミスマッチ 仮説 2 : 関係者間で現状に異なる見立てが存在している ユース世代のアプローチが急務 • キャリアデザインと人材育成 成長段階に応じた ESD を提供することが必要である。 幼児教育から企業人まで対象は幅広い。 小学校と中学校の ESD における接続アイデアがほしい。 • ESD 実践状況の地域差 多様な人材や情報の共有機会づくりの場があると良い。 モデル事例の形成とその普及が急務である。 • 関係者が果たす役割の整理 行政、学校、企業人が地域の ESD で果たす役割を明確化することが必要。
写真等	

催事名	第2回大分 ESD ミーティング
目的	<p>地域の環境教育、ESD を推進するネットワーク形成に向けた課題、またそのために各関係者が地域でどのような役割を担っていくのかについて意見交換を行う場として開催。地域での活動事例を共有するとともに、課題抽出等をとおして ESD の地域での方向性やあり方を探る構成とする。</p> <p>意見交換を通して得られた成果は、下記の「九州・沖縄地域 ESD 推進計画」（仮称）にて活用する。第2回は大分 ESD フォーラムと同日開催とし、第1回の発展的な内容として実施する。</p>
開催日時等	<p>日時：令和4年1月28日（金） 15:30-16:30 会場：JCOM ホルトホール大分 201 会議室 開催形態：対面・オンライン併用 主催：九州地方 ESD 活動支援センター 協力：認定 NPO 法人地域環境ネットワーク</p>
概要	<p>参加人数：28名（企業、行政等大分県内の ESD 関係者）</p> <p>第1回は ESD 推進における各主体が抱える課題について絞った議論を行っており、今回はその発展として課題解決に向けて必要な支援ニーズについて深掘りする</p>

	<p>議論を行った。ミーティングには登壇者にも参加いただき、実践に向けた新たな視座を参加者に提供した。</p> <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 九州 ESD センターより第1回の振り返り 2. ブレイクアウトルームを利用した議論 3. 全体共有と振り返り
意見交換より	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング、フォーラムにより ESD についての論点がクリアとなった。 ・ESD の課題感覚、人物像がまだ見えにくいのでイメージ共有が必要。 ・交わる場、企画を投げかけていくが大事である。 ・ESD は環境、教育のイメージが強かったが、SDGs を含んだグローバルな話題であり、新たな視点がもらえるようなネットワークに期待が膨らんだ。 ・事業継続のためのマンパワー、特にユースの力を得られる仕組みが必要。 ・ESD の視点から、企業、学生、地域のマッチングが図られると良い。 ・中身が漠然としていることが ESD の課題である。 ・地域で取り組めるゴールを設定し、地域完結の互酬性を模索してはどうか。 ・企業として俯瞰的な立場で ESD に関われる側面がある。 ・防災教育や、温暖化対策について出前授業で実現できるところがある。 ・環境教育アドバイザーなど既存の仕組みの活用も有効ではないか。 ・場作りとネットワークの幹事役の必要性を感じた。
写真	

ウ、策定ビジョンの骨子

■九州地方 ESD 活動支援センターが実現を目指す地域の姿

九州・沖縄でのESDを活用した地域の姿

地域ぐるみのESD活動を推進することにより、地域の多様な主体が支え合い協働して環境、経済、社会のバランスを保ちながら、地域の資源を守り次世代に伝える活動に取り組んでいる。

地域課題の解決に向けた重点取組

- ・九州・沖縄地方の特性を踏まえたESDを推進する。特に、島しょ地域のESD推進に努める
- ・地域のESD活動（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等を含む）を把握する
- ・多様な主体からなるネットワークを構築する
- ・人材の育成に取り組む
- ・経済的支援に結びつく取組を行う
- ・先進的、先導的取組の波及に取り組む
- ・脱炭素社会に向けた人材育成・ネットワークづくりを促進させる

■「地域ぐるみのESD活動」とは

「地域の姿」実現に向け、「この地域を持続可能なものとするためにはどのような人材の育成が必要かについて、多様なステークホルダーが集まって協議した上でESDを推進する」取組や体制を指す。

■実現のための3ステップについて

「地域の姿」実現のための3ステップ

①地域における

ESD活動実践者の増加・確保

②地域ぐるみの

ESD活動モデル事例の創出

③先進的な地域ぐるみの

ESD活動事例の横展開

①地域における ESD 活動実践者の増加・確保

- ・地域において、「持続可能な社会（地域）に向けたひとづくり」の実践者を増加させる。その上で、自分たちの ESD 活動が「どのような人材の育成に貢献しているのか」、「地域一体となったひとづくりの中で、どのような役割を担っているのか」についての認識の形成を促す。
- ・また、活動資金の確保や活動人材の世代の継承など、ESD 活動実践者の持続性を確保する。

②地域ぐるみの ESD 活動モデル事例の創出

以下 3 点を満たす地域ぐるみの ESD 活動モデル事例を創出する。

- ・地域の現状と課題を適切に把握した上で、持続可能な地域づくりのためにどのような人材の育成が必要か協議する場があり、地域の中で共通認識が形成されている。
- ・行政、学校、企業などの多様なステークホルダーが参画した上で、地域資源を活用し、地域課題解決に資する人材の育成に繋がる教育活動が行われている。教育活動は、環境・経済・社会の統合的な向上についての内容を含むものである。
- ・想定されている取組の実現可能性・継続可能性について適切に検討がなされている。取組自体に経済的・社会的な持続可能性が見込める。

③先進的な地域ぐるみの ESD 活動事例の横展開

ステップ②によって創出されたモデル事例を含め、九州・沖縄における先進的な地域ぐるみの ESD 活動事例の知見やノウハウをネットワーク内で蓄積・共有するとともに、事例を横展開する。

■ビジョン策定プロセスの成果

ステークホルダーへのアンケートや意見交換により、ESD の担い手・人材不足、ESD の推進体制整備（予算面）、ESD 情報の不足等、多くの課題を把握し、推進ビジョンのターゲット・支援ニーズが明確となった。

■地域 ESD ネットワークづくりのモデル形成

大分県でのフォーラム開催に向けたプロセスをとおして、多様な分野横断的なネットワークづくりのモデル形成と知見を獲得した。

■成果の推進体制への活用

地域ぐるみの ESD を主軸とする推進ビジョンの具現化に向けて、次年度以降の中期的な九州 ESD センターの活動の基礎となる方向性が獲得された。これまでのネットワークの継続強化、情報基盤の強化、新たな実践者との関係構築に向けたセンター事業として具体化する。

(3) ESD 全国フォーラム分科会活動

●業務目標

一般的な公立中学校における SDGs の視点を取り入れ、取り組みやすさに視点をおいたキャリア教育カリキュラムの構築を行う。

■ESD for 2030 学び合いプロジェクト

中学校における SDGs を活用したキャリア教育支援

ESD for 2030 に向けた SDGs を活用した学び合いプロジェクトとして、多様な主体と連携した授業づくり、地域ネットワーク形成に向けた取り組みを促進させるニーズが高まってきている中、学習指導要領が改訂により「持続可能な社会の創り手の育成」が明記され、学校教育において、SDGs/ESD を学習指導に活かすカリキュラムマネジメントが課題となっている。

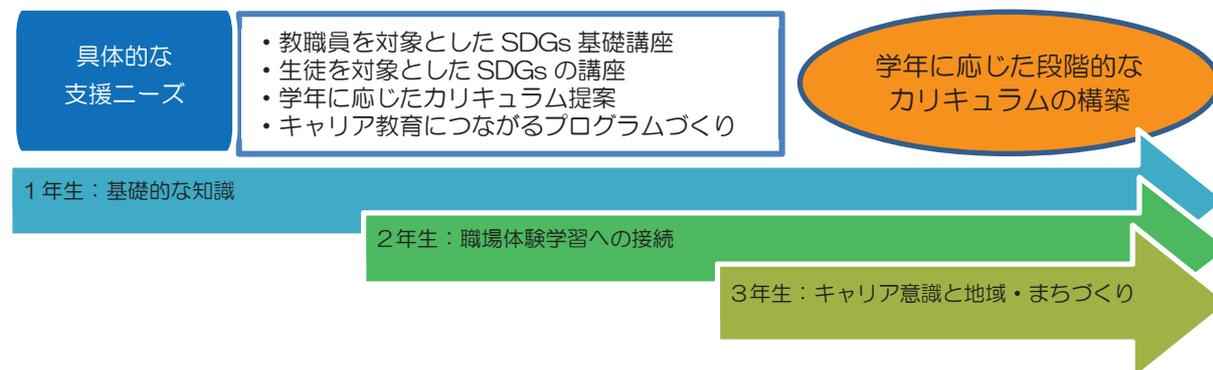
ESD センターでは、熊本市立城南中学校と連携し、一般的な公立中学校における SDGs の視点を取り入れたキャリア教育カリキュラムの構築を 2 ヶ年プロジェクトとして支援を開始した。

【今年度の成果】

- ・学年に応じた SDGs 活用のポイントが明らかになった。
- ・2 学年での学び・実践を基軸に、1 年後期での導入、3 年前期での進路選択に結び付け、学期ごとの単元取組をもとに、学年間のギャップを少なくする。
- ・学校内で学習教材のストック、アーカイブが進み、先生同士の相互参照の土台が構築されつつある。

【次年度の取組】

- ・キャリア教育のにならず、各教科における活用も視野に全国の実践者や専門家、地域 ESD 拠点等と連携を深める。
- ・1 年後期-3 年前期にわたる SDGs 活用カリキュラムをまとめる。



【学び合いの場】全 5 回

①	日時：令和 3 年 4 月 26 日（月） 内容：関係者打合せの実施（クローズ） 参加人数：城南中学校各学年担当教員、他 11 名
②	日時：令和 3 年 5 月 14 日（金） 内容：職員研修の実施（クローズ） 参加人数：【参加者】城南中学校全教員、他 25 名
③	日時：令和 3 年 7 月 30 日（金） 内容：関係者、ESD 拠点の顔合わせ、参加拠点打合せ会議（オープン、オンライン） 参加人数：小・中学校教員、熊本市教育委員会、地域 ESD 拠点、他 12 名

④	日時：令和3年10月21日（木） 内容：今年度のSDGs学習について（コロナ対応を含む代替企画）、学年に応じた段階的カリキュラムについて 参加人数：城南中学校1,2年生担当教員、他 5名
⑤	日時：令和4年3月8日（火） 内容：次年度のカリキュラムについて 参加人数：城南中学校担当教員、岡 氏、他5名

【実践活動】全2回

①	日時：令和3年5月19日（水）、25日（火） 内容：学年に応じたSDGs学習 50分×2コマ×2週（4時限授業） 参加人数：城南中学校全校生徒 1年生：122名、2年生：140名、3年生：140名 
②	日時：令和3年8月5日（木）9:00-11:00 主催：九州地方ESD活動支援センター 共催：国立大学法人福岡教育大学 協力：熊本市城南中学校 後援：熊本市教育委員会 内容：「SDGsを活用したカリキュラム研修」（オープン、オンライン） <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 福岡教育大学 教授 石丸 哲史 ・取組紹介 熊本市立城南中学校 教諭 厚地 高行 氏 地域コーディネーター 岡 裕二 氏 ・指導助言 熊本大学教育学部 教授 宮瀬美津子 氏 参加人数：城南中学校教員、他校の小・中学校教員、教育委員会、地域ESD拠点 対面30名、オンライン37名 